

経営(継承)のツボ

理念



はやかわ・ひろし
 経営コンサルタント。1991年に独立。
 介護事業に関する独自の調査に基づ
 いたデータ分析を各誌・紙に発表。著
 書に『早川浩士の常在学場』(筒井書
 房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、
 『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企
 画)、『データで徹底分析 介護事業の
 最新動向と経営展望』(日本医療企画)
 など。
<http://www.hayakawa-planning.com>
 ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

転期に立つ経営者の資質の鍛え方⁶⁴

積小為大

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

驚天動地の大地震

最初に、「2011年東北地方
 太平洋沖地震」で被災された皆さ
 まに、心よりお見舞いを申し上げ
 ます。

街と人々の暮らしを木っ端微塵
 に吹き飛ばした驚天動地の大地震
 は、被害額が最大25兆円(政府試
 算*)という社会的資源を瞬時に奪
 い去ってなお、終息なき福島原発
 事故と放射性物質の脅威、原発避
 難範囲からの避難者と被災地・被
 災者の避難先の広域化、収まらな
 い余震連鎖から新たな巨大地震発
 生の不安、電力不足の長期化など
 から復旧・復興の道のりは険しい。
 被災地の1つ、福島県相馬市は、
 江戸時代の天明年間(1781~
 88)と天保年間(1830~43)の
 2度の大凶作から、人口が3分の
 1にまで落ち込むという壊滅的な
 被害を受けた過去がある。

当地を治めていた相馬中村藩の
 財政も窮乏を極め、これを打開す
 るため二宮尊徳の指導を仰いで
 「二宮仕法」を導入した。
 単なる農村改良ではなく、広い
 世界観と人生観のなかから生まれ
 た徳をもつて徳に報いる「報徳」と

いう指導理念から、「至誠」「分度」
 「勤勞」「推讓」の4つの徳目を実行
 することを柱としていた。

この仕法を実施したところは、
 福島県、栃木県、茨城県、神奈川
 県など600カ所を超えたが、理
 想的に行われた相馬藩を称え「相
 馬仕法」とも呼ばれている。

成功した背景には、疲弊した藩
 が総力を挙げた人材育成から、藩
 主の師・慈隆の下、次代を担った
 藩主・相馬允胤とその家臣団が愛
 郷心に燃え、心を合わせて和の精
 神で30年の長きにわたって全力を
 注ぎ続けたからにはかならない。
 壊滅から100年、仕法が完成
 したとき、元号は明治へ。

「報徳の訓えに心をはげまし、う
 ますたゆまず豊かな相馬をきずこ
 う」と、市民憲章にも記された歴
 史を持つ地域である。

小を積んで大と為す

尊徳ゆかりの市町村が集って研
 さんを重なる報徳サミットがある。
 10年10月23日の第16回全国大会
 は相馬市で開かれ、「報徳仕法の
 訓えを生かして、未来につながる。
 まちづくり・ひとづくり」をテー
 マに掲げて、1道6県から18市町

村が会した。

参加市町村の神奈川県小田原市
 (二宮尊徳の出生地)は、被災地支
 援として、報徳サミットで交流の
 深い相馬市、南相馬市等に対して、
 小田原アリーナ他1000人以上
 の避難生活者を受け入れる準備が
 あることを伝え、現地の状況次第
 で対応ができるように準備を行っ
 ていることを伝えた。

1986年8月の台風10号で70
 %の家屋が河川の決壊から水没し
 た栃木県茂木町は、水害支援をし
 てくれた尊徳ゆかりの相馬市への
 恩返しをしようと、「救済物資受
 付所」が町民センターにいち早く
 開設し、多くのボランティアによ
 って支援物資が数度にわたって輸
 送されたという。

尊徳の教訓の1つに「積小為大
 (小を積んで大と為す)がある。
 「土地を耕すには、一度に一畝す
 つ掘り起こすのが限度である。
 (略)もし無理をしようと思えば、
 畝をこわすばかりでなく、体も壊
 してしまふ」*2
 前代未聞の事象だからこそ、う
 ますたゆまず「積小為大」である
 と、未来を拓く人材育成に努める
 ことを忘れてはなるまい。

*1 政府試算には、東京電力福島原発事故に伴う損害等は含まれておらず、最終的な被害額は膨らむ可能性が高い。
 *2 「二宮先生語録」から。